

要 覧

2019.04.01

高知県農業技術センター 果樹試験場 KOCHI PREFECTURAL AGRICULTURE RESEARCH CENTER Fruit Tree Experiment Station



果樹試験場の概要

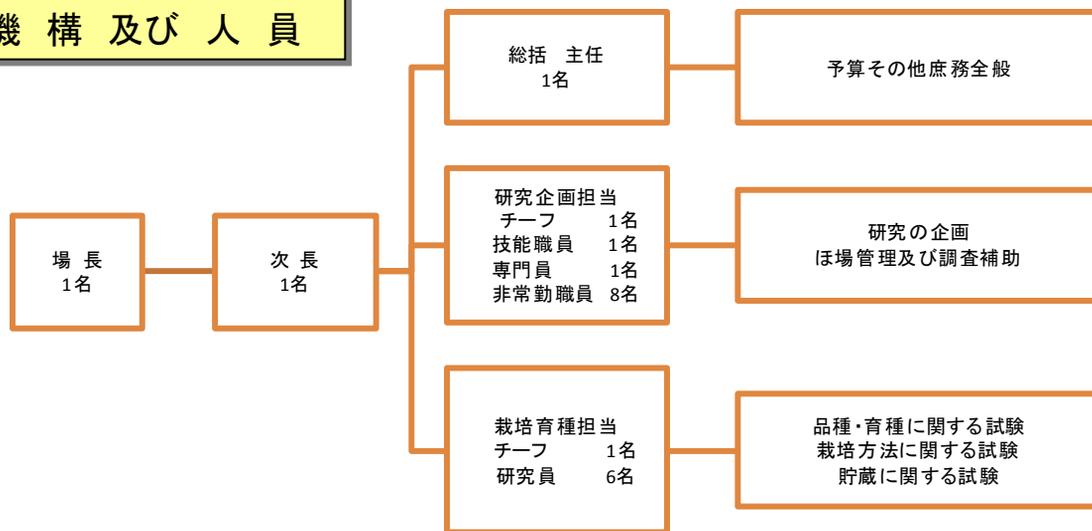
本県では、温暖な気候を活かし、ブンタン、ユズ、ポンカン、日向夏、新高ナシなど様々な特産果樹が栽培されています。当场では、消費動向に対応できる高品質な特産果樹を効率的に生産するため、新品種の育成や高品質果実の生産技術、生産性向上技術の確立に取り組んでいます。

高知県農業技術センター(南国市廿枝)
高知県農業技術センター果樹試験場(高知市朝倉)
高知県農業技術センター茶業試験場(吾川郡仁淀川町森)

沿革

昭和 4年4月	農事試験場朝倉試験地として発足。
昭和30年8月 1日	農事試験場朝倉分場となる。
昭和34年3月25日	果樹園芸伝習所を設置する。
昭和38年4月	果樹試験場として発足。栽培科、環境科を置く。
昭和40年4月	総務科、柑きつ科、落葉果樹科に編成がえする。
昭和46年4月 1日	総務科、栽培科、品種科、落葉果樹科に編成がえする。
昭和49年4月 1日	果樹園芸伝習所を廃止する。
昭和55年4月 1日	総務班、栽培管理科、柑きつ科、落葉果樹科に編成がえする。
昭和62年4月 1日	総務班、常緑果樹科、落葉果樹科に編成がえする。
平成 3年4月 1日	高知県農業技術センター果樹試験場として発足。
平成10年4月 1日	機構改革により商工労働部産業技術委員会へ所属する。
平成19年4月 1日	機構改革により産業技術部へ所属する。チーフ制とする。
平成21年4月 1日	機構改革により農業振興部へ所属する。
平成24年4月 1日	機構改革により次長を置く。
平成25年4月 1日	機構改革により主任(総括)、チーフ(研究企画担当)、チーフ(栽培育種担当)を置く。
平成29年4月 1日	機構改革により専門企画員(技能伝承担当)を置き、次長に兼職させる。

機構及び人員



予算内訳

	(千円)	
	令和元年度	平成30年度
施設整備費	3,930	0
管理運営費	11,691	19,093
研究推進費	7,432	7,173
試験研究費	27,203	35,851
合計	50,256	62,117

主な試験研究課題

(1)カンキツの施設栽培における環境制御技術の開発

ハウスミカンの増収・高品質化を目指した環境制御技術体系を確立するとともに、IoTを活用したセンシング技術等を開発します。



炭酸ガス施用装置と収穫間際の主幹形「興津早生」



樹体情報をセンシングしている「興津早生」

(2) ユズにおける熟練者の持つ栽培管理技術の指標化と適正着果に関する研究

新規参入者等の早期の技術取得を可能とするために、熟練者の行うせん定・選果作業などをアイトラッカー（眼球運動計測器）により可視化します。また、隔年結果を起こさない適正な収量と葉面積指数(LAI)の関係を明らかにするとともに、LAIの簡便な計測方法を検討し、LAIをせん定時の客観的な指標として用いる連年安定結実技術を開発します。



アイトラッカー(眼球運動計測器)による作業の可視化



LAI(葉面積指数)を用いた連年安定結実技術の開発(適正収量やせん定の定量化の検討)

(3) カンキツ新品種の本県への適応性及び特産カンキツの育種に関する研究

高知県では中山間地域の基幹品目となっているユズ・ブンタン等の特産カンキツ類について消費者ニーズに合い、栽培しやすい品種を育成・探索します。



(4) 温暖化に対応できる落葉果樹類の育種に関する研究

温暖化により栽培が困難になるナシ等の落葉果樹類について晩霜害、開花・発芽異常やみつ症などの生理障害が起こらない品種を育成・探索します。



晩霜害

開花・発芽異常

みつ症

交雑実生の育成状況

(5) ナシ有望品種「凜夏」、「あきづき」における早期成園化に向けた省力樹形の開発

有望品種(「凜夏」、「あきづき」)において、2本主枝整枝の欠点を解消可能な新たな整枝法を開発します。



「あきづき」の果実



「あきづき」、「凜夏」は樹勢が強い



樹形完成を目指して主枝を延長している様子

(6)「土佐文旦」の野囲い貯蔵における新たな被覆資材の研究

「土佐文旦」の様々なタイプや規模の「野囲い」に適用可能で稲わらと同等の防寒性、遮熱性を持ち、入手及び設置が容易で、低コストとなる代替資材を選定します。



保温性、遮熱性に優れる稲わらで被覆



「野囲い」貯蔵



被覆資材の比較

その他の試験研究課題

- 生育調節剤及び除草剤に関する研究
- 技術支援事業
 - 少加温施設グレープフルーツの栽培に関する研究
 - 温暖化対応や中山間地域の耕作放棄地に導入可能な果樹品目の探索・評価と栽培技術の確立
 - 施設水晶文旦の無加温栽培に関する研究
 - 施設カンキツ栽培における総合的害虫管理技術の実証
 - ユズのえくぼ症(仮称)に対する石灰資材の施用効果の検討
 - 果樹栽培におけるIoT利用の検討



新規有望品目
グレープフルーツ



新規有望品目
ポポー



カンキツ総合的害虫管理技術(IPM)現地支援

施設概要

○土地	約 8.4 ha	
○施設	研究棟	本館(2F) 408㎡
		実験室 147㎡
		圃場管理棟(2F) 201㎡
	温室・ビニルハウス・網室(10棟)	1,592㎡
	貯蔵庫(2棟)	245㎡
	防除施設(2棟)	35㎡
	その他施設(7棟)	305㎡

交通案内



高知県農業技術センター 果樹試験場

〒780-8064 高知県高知市朝倉丁268
268 TEI ASAKURA KOCHI CITY, KOCHI, 7808064 JAPAN
TEL 088-844-1120 FAX 088-840-3816
E-mail:160506k@ken.pref.kochi.lg.jp
<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp>